



「考える力」を伸ばすには創造力を鍛える

校長 浅見 正史

9月も猛暑日が続き、体調管理が非常に大変だったと思います。今後も、バランスのとれた食事、確実な睡眠時間の確保、適度な運動を実行し、心も体もリフレッシュし、実り多い10月にしていきたいと思います。



さて、生徒の皆さんは「人間は考える葦である」というフランスの哲学者・パスカルの言葉を知っていますね。葦というのは水辺に育つ、弱く細い草のような植物のことで、「人間は自然の中では葦のように弱い存在である。しかし、人間は頭を使って考えることができる。考える事こそ人間に与えられた偉大な力である」ということを述べています。また、ドイツの物理学者・アインシュタインは「考える能力は頭のよさと同じではない」と言っています。人間が、ここまで社会を発展させることができたのは、現状をもっとよくしようとする「考える力」を備えていたからだと思います。

私は、この人間ならではの「考える力」を高めるには、創造力(新しいものをつくりだす力)が大切だと思います。創造力を鍛えるには、何にでも興味をもち、探求し、とことん調べたり、挑戦したりし、新たなジャンルに触れ、感動した心で次に行動に移すことが大切です。そのためには、メモを取る習慣も大切で、知識を増やすだけでなく深めることもできます。『何だか気になる。これ面白そう。どうしてかな。』が新たな課題となり、解決のための創造力を高める出発点になります。その課題解決方法を様々な視点で、試行錯誤を繰り返す中から新たなひらめきが生まれ、「考える力」を高めることにつながっていくと思います。

生徒の皆さん、10月は新人体育大会、合唱コンクール、中間テスト、市駅伝競走大会など活躍の場がたくさんあります。どうしたら勝てるのか。どうしたら上手くなるのか。どうしたらよい点数が取れるのか。創造力をはたらかせ、自ら考え、悔いのない結果となるよう、頑張ってください。保護者、地域の皆様、生徒たちの頑張りを称賛し、温かく見守っていただきますよう、よそしくお願いいたします。



10月13日(日)は開校記念日です!

1947年(昭和21年)新学制実施に伴い、大宮市立第一中学校(大宮小学校校舎を併用)が創設され、1949年(昭和24年)大宮市立南中学校を分離し、大宮市立東中学校と校名が変更されました。

1951年(昭和26年)10月13日、現在のこの地で新校舎落成式が挙行政され、この日を開校記念日として制定されました。その校舎は、平成11年9月に当時木造校舎と呼ばれ、48年間親しまれた木造校舎が解体されました。現在、事務室前にある木のテーブルが木造校舎職員室の出入口引き戸です。ぜひ、ご覧ください。